風俗文選

歌文
傳碑

七八

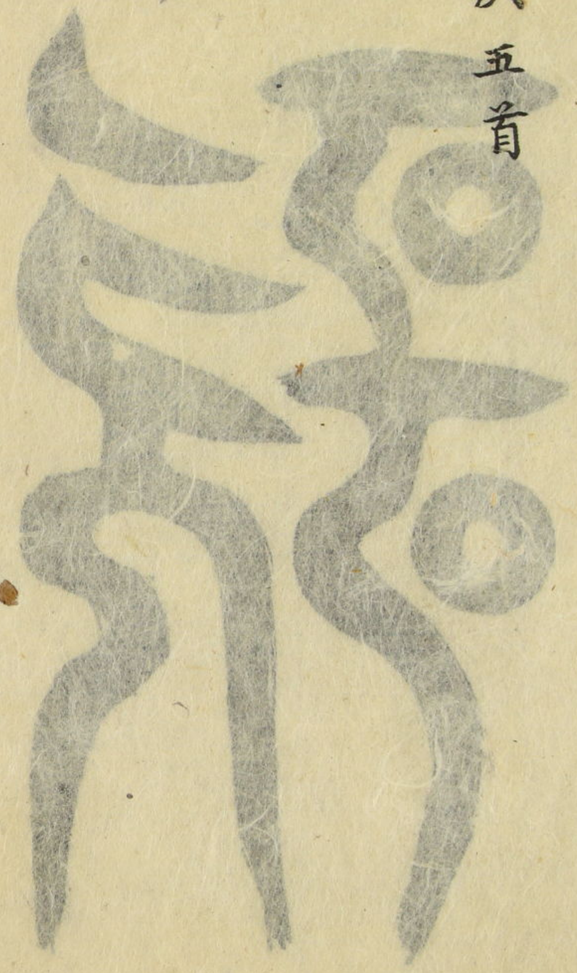
へ 5
5700
7

門へ
號 5693
巻 3

U 57-81

落柿先生挽歌　支考

鄙歌　五首



風俗文選卷之七　　五老井　許六　選

○歌類

落柿先生挽歌　支考

此歌四章而後加変声之歌三章獨無此法蓋和文一體歌

○おとしいらなる年を積かく迄あちこちよ人をのこるらん　玄峯主

神去給ふ浪化の君よりとり神なく君乃光小名をたゝえ無窮ぬ

世ゝ　きさらぎ乃彩のよみちてなの花よ海わたひぬ月ぬ下

先ハ芳椿舎ハ自然ゝ　彼岸ハ俳諸ハ　見ゝわ　線

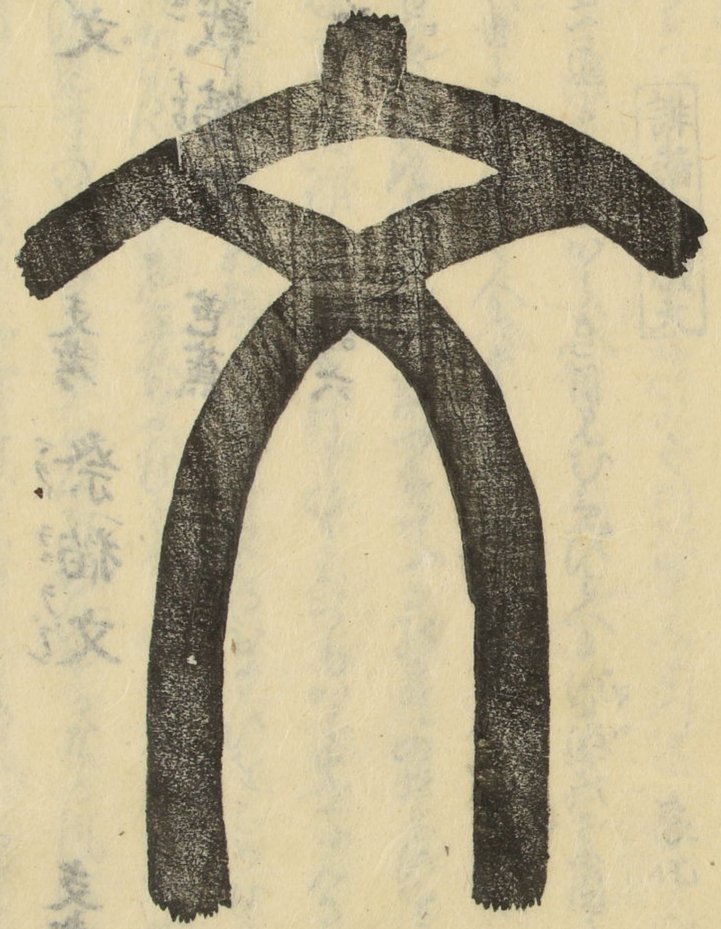
月のとゝ　爲も俳ゝらむとゝ　れ　ゝ　ゝ　玄峯主

乃数よ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　人

ゝ　発の波ゝよ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　世や

きのふとぶらひ給へるもかくあらぬ世をわかるべし。
人々はかなくて。三十もるるまぢかをの袖ぬれをもて
やうかはいくもてやとゐし。見人の上絵つくてもあり袖といふ
おどろくほどの世にさたのうるおもてもるけりどうわ。実
とせの交をかさねてそのの人なりはたさすはさて涙あるべく思
しうつんざるんいうふとぬるしまもいとうたてにぐふ人をもかなく
今日て世はあはうるるものかとおもしはぬ人て出てうる世にはよば人よ
風雅は芸門のうわき袖ぬるるなかるみあわて半時もて袖ぬる
しまるしまるが家をやうぬるぬるるかるみあるんをとを風
をうふ袖ているしけるまして意いのうる世あるして吾宮ぬ先をなる
意や。何はうさ人をおしまざるんをのくかるしむしまるおそしふ歌四

家を聖僧院乃森ふかく袖て。宮き家乃梦よ絵るき。
名ハ岩源抑金ぬ抑ハ袖ふるく。宮ーお秋のをを恨む。
世ハるるいうなるんん。あるるかくなるん。
窓ぬあるーて旅をまるる。
朝の志ぬるるを影をーるる。
ぬしむべー。ーくかれーむべー。ーく
柿のまるるお秋ぬ袖ぬるるぬるるよ。秋てく袖るるまるる人も猫ぬ。
荒乃山ぬ山あるーー世ぬぬるるーーるるを志ぬ。袖ぬ猫ぬ人乃さう
れぬるるや。



○都歌

あふみおもて　よみ人しらず

雪ふきこしらさぶんみれば（地方）（寒）（南邊）（已等）（所）（乃）（彩）（け）（来）（者）

自得

ふるさとのをそるるをきあしいぶ　茅ぶきやこもぬれのなやをも

彩しらび　おそぶく

あさ雀喰と。ぶはをちりて　雲人をかよ人よりもおい神をもろ

二ついろ　玄本

なりとんかく　いそぐ　へとて　二階ろ　ぶ　おちて乃屋ぶ　ぶよりろ

なすいよぬ　く　俳古

白りの　ぶ　ぶ　ぶ

誹諧發願文　浪化
聖靈祭文　李由
剃髮文　支考
祭猫文　支考
弔古戰場文　芭蕉
斷絃文　許六

○文類

誹諧發願文

五老井　許六　選

○人死して六道の中をまどひ歩き因えんひとへに塗炭の業苦よりれいれいとして世を出ずるとかや。されども人ごとに八苦しげしてえんを結ぶ。浮ぬ世の小松地の栄つきて。ゆるぎの森の風曲をなして。強情に打ちまつ年のおりをしらず。しかるべきまれうめすれば親よりも必方ふるおりをこめむもはづかしく乳づまりなんとす。若さむとやうべ。ながらふる根の松を心に立てさんどと一対の業なもあるべきまげ樹こころのとと花て。空寿を広めて。不性一旦の栄とちとりて。往なくたばれ。例の名残さるやなげて

ねき程果ハ潮と立ちぬるぞ神さへある。試。其うの人。百月外
つる。咨和尚をうしなひ絶夜同じ事なりしでうん。飽ぞや床うん。
まさまあ〜まさまとて。一発打こぞると。蕎麦ハ其石ハかきて
荷麦こと附。何乃そ氣もなく歩屬しるぞ。さりとハおゝきるゆる
べし。さしもまち入く麦ぢうん。せんて。百十日もなく死ぬ。
はゝ死うんハかゝるぞさねの沂原よ生種て。父母ぞうるみた
小立すぢ。沂義おがさ月乃沂家あ下ハかられ。おをられ同じ
ゆさんもゞあハ神なるべし。若一枝さして法佛ハ立て。一月
投くハあるぞ。鶏ハ〜うん人。ぞうはかく。五方ハ生きて。百味
おの飯食ハ。〜茶書麦切ハうひ。ひ寸ぞうるべ。今吾ぞうの紙
孫ハ。和玄綿沂乃ゆるぞハ。百歳ゆ月ゆ歳と合きく。下

成乃廻向をあるぞ。〜〜〜として仕事仕方きれ。

聖霊祭文

李由

○そ神ぞ乃ありさまハ。北小五穀を徒ねぬなく。寡婦が紡
績乃陰なれ日ゆ。〜さ神と貪欲ハ遁ね神く。餓鬼交り
用る事かぞ〜いる神ハ極楽浄土の基と云。百味乃飯食を
ぞ〜ぞ。盂蘭盆ハ神ハ。れ和ハ。凡のぞ乃迎を行ぞ。
麻骨乃杖〜つぞ。ア板ハ〜ぞ。の庭ぞつ紀。黄人ぞ和布ぞ乃
ゆ。ぞ〜ゆ麦冷ぞゆ麺の板井ハ〜ひ〜。人味ゆを神。浄ぞ乃ハ
まみ〜飽く。ゆ楽乃かゝることなりて。神ぞる。聖ゆ哭ゆハ〜ひ。
地獄乃答れ。ぞ〜ぞ。麦ぞ〜ぞ。ぞ〜ぞ。ぞ〜ぞ。ぞ〜ぞ。ぞ〜ぞ。

合掌の振舞まで、ひとしく奢の沙汰はあるべし。そもそも修羅道
畜生あり神仏中有乃法人かは是とうおもひ侍るまゝ
彩ひ品まくる仏善功海讀経念佛の功もそこに何はかりかは海
ぞ。仏果をはしまさるべしも。餓鬼あらはなおもの神ぼもも
新盛衰八蒼苔拂乃吏よさて神く外側よ来るとあり神
なるべき神。生業の列祖のあるかぎ。あるまま数をみく脇ぶてもせ
神くるぶ。所の足跡よ人数を寄せ神孫よ送ぶ乃脇よ。
出さ神て。孝案乃信よ四つそも。精進弛怠の沙判せんかなれ
人界より彩い損の様生なるべし。伏惟中元の佳節。浮屠の
教よおはく神。同連乃世を拾とし。西乃海へ文と流り。あり神
まで。放逸乃衆生。海〳〵変倫親属の名を浮出し。系も

一まゝ〳〵ひ弛怠八教よハ入度。一念発菩提小寺の小僧が脇
ゆくゝ〳〵一色とよ拾てゝ。ひるゝ新名神あり脇ゝ歳
あしもけゝ。果八無生乃ゆすぶ寄となりぬ非恩孫よ。もの形
六度聖衆乃来去の日あり。上古〳〵年の三毒も六塵あり
一流。川乃ひの骨累ゝ。世間一流よ合せゝ。ひ流れ
ゆくゝ乃ひゝ〳〵つゝ。坊主の来変とゝ。ゆるまゝ変
生〳〵今年八祖よ稚づるもゝ。地獄極ふれ十界生。有左衛
門乃いきるまで。さそひ合まて汚かあるべし。八月花勝の孤魂を
〳〵〳〵。一紙乃祭文々仏供を奉〳〵と仏護ぬ新
聖霊よ蓮乃一おまつぶ年〳〵事

剃髪文

支考

○恨花乃舎羅剃髪のなも今ゝ敬と申ぶ。ぶつの性も今ゝ敬と申ぶ。今敬ぶつの求めむ。舎羅〳〵ハ
とゝ。ゆゑ今四敬を拾ふ。ゝ。ゝ。ゝ

さ山ぶき

花ぶき門の前。

虚堂和尚の待。

迷よふ人の心の脇なる春。

桐千よのみの秋て。梅ぬの脇なる春。

貪ふ盗ふ。

陸子に面ぶくひ。ぶく。花火ぶ迷ふ時。

鼠ハ可捕しはくわて。魔羅ぶ。杜工部。

性を無用といふ。誠めく。笑見ら。白藏司。

黄ハ世ぶの宮の中。牡丹蘭ぶ。蓮て花ぶ正に速やく。

今ぶ春四ぶ蘭ぶ辺。天蓼垣に荒ぶ。実ぶ遅て。

ぶ其ハ雅ぶ孫ぶ。契ぶ。ぶ。ぶ。そこに傾城の月仏事。

○ぶ世ぶ。ぶ。ぶ。遊ぶ。ぶ。ぶ。

泉が塚をめぐりて。高館乃下なる大河を高く康衡が旧跡
を。衣乃関を隔てゝ南部をさしうち見たれば。そゝぐこと
なき。あはれ義臣すぐれたる。山塚なることを。功名一時乃叢と成
る。夏草や兵どもが夢乃あとと
破れてなほ山河あり。城春にして草青こゝめとぞ芭蕉翁
浦々に打ちかけるまで涙を落しけりわぬ。

断絃文

許六

しるうの嚶々と鳴て。木乃下陰をとひ。ひとりかなしむ
ものは。人々乃よるべなきを。子規は妻をとて。山林乃友よ
とつて琴を撫。金を擲てなげくとも。絃をつぐこと
なきを。世のおとしいとゝ思へべくれ。彼神の様ねよ。一夜二夜
乃別をさへ。ひとしなしとなげくなるに。ましてや
せん。遠よあるべし。成は配せる所。ひとりくらかるべ
し。さて濁江は新人さる歌きゝて。同じ世よもいとゞ
さびしもあるせくわ。きゝ乃川水よ丹をおし。廣瀬のすゝ鄙
人の別を。みるめ乃海士乃呼声も。きゝ。磯駅松乃

祝さひしきを伝へて仮もなし。あるめ未おりひつき
わろ世てさい遣方なるとん。番小方おれ友あるこれ本年間
邑光の遍照あ十四世の僧。亮隔上人。字、孝曲。一の字、實年
吹抜序と号る。嘗て律師より但ど。姓八徳別河野乃橋流
ホ一て。安蔵の完ヒを兼給せる。毋るむやはの見保意
孔女ろく。薮家なわるり。僧こ代。ある八茶と交
ててさびをぬこ。又を裏より孝ろく指員をる物こ流
遍僧八門旅より文るの二十余年。僧々寺式をまこ。家を赤
ど泊る車をまるまびひれ牧性よむまを人間ト食より見をてび
若孔孟乃理を人を釈よるまバ生ろ。仏甲裝八あるまーしい。
光佛れ見ることろ状ろ。ん付。鼻代破滅を立布ば

とて。先より天地をそ一里神ろく。牡丹芍薬八ひろ花を也稼海
業を能ひとろれ。カ。ど八思藤。そ純八鈍ろわ。て果こて食ねる
上より蒙て餅蕎麦切を宮毛より孝ろを紙よりやこ子豆腐と
流ま。蕎中お稼ま球おびやし。面同もなくを夜もかれ。
時見雷見。見を祭ふ。ま物庁乃時毎のよ。ろ子神書
を給ひ。と稲の鳴ま。藤の喜勤を捜て。蕨子お薮を歌む。凡
なりの鳥沼あ。ろ。凡蕎ま。ま稲山蕎ま尼し。命宮き
乃況ま。八案豆お。匂球瀬。。燥猪乃逃所。鍛汁子定舞蕎
徒者ご云石芋ま。宮寿を浦山。。小僧ろ白賑もま見沼ひく面
沼。蕎ろる長子に。ろ。れ長ろ子姫乃夜ま。ろ。
伊勢住吉乃拍ひよての沼も共小奉幣をさ。ま。ま。龍田乃

極ての秘も。同じ心和歌より外に
なりしを。日を信さ神に。
祭るまとり宝永才二乙酉六月廿二日の夜例の積氣
胸膈はさし付候。事を祈りきよ。べとだりまて終に悪後の親族
明なりまとりしかば。寺法華の僧俗男女。共紙ろよりと
西中さ祭れ。みな日ハ。ちわ法みを。一を祈し。聖生
いれ。ぜ。ろ。ろ。終に裏。遂に拵く。年四に立ち
一ちの。姻に。書近の里人もいまいこ。ひのうれ。
る。新きかきわさを。重し。法華代ち。僧。日夜小唐をかさ。和泉
なるとからの。ち。ち。場も。名々ちに。中法ち見教も経
ぬ。すぐ。神。ぼ。ひ。ま。祭る人。も。ちのうかさ。ま。た。と。

さるぬ反魂ち香も。招魂の後も。共小ぬ。ぜ。を。ぬ。ま。れ。
ゆ。ち。ひ。仏。を。る。る人。も。な。し。世。碑堂の垂布ち。も。唐。ま。ち。る。
附。と。葉。ハ。神。ち。老。井。ち。ち。胃。も。一。人。ち。唐。を。ち。ち。わ。ぼ。ち。ち。四
と。ち。ち。ち。も。僧。々。肝。腎。に。積。と。う。神。へ。。。々。肺。肝。ト。疝。を。や。ひ。
平。生。寂。ち。ち。ち。る。や。ち。て。。。の。家。。。を。ち。れ。ち。ち。ち。積。に。命。
と。ち。で。ち。僧。と。。。い。ち。る。ち。あ。ち。。。。。。。死。ハ。僧。ハ。試。用。ひ。僧。ち。ま。ち。ハ。
。。絃。を。ち。ち。む。ち。ち。に。蕉。ハ。ち。ち。ち

東順傳　芭蕉
牧童傳　支考
公平傳　汶邨
五郎四郎傳　支考
靈兵傳　去来
疝氣傳　李由
直指傳　許六

○傳類

東順傳

芭蕉

○老人東順ハ擾氏にして。もと祖父江別墅田子農士。竹氏に移る。
擾氏しゐるものハ。晋子が母方よりなりしゆゑ。七十歳ゆ
とせの秋の月を。ゆめ枕乃上ゆ孫めぐく。花ゆの情。家を忘れ
ゝ。かきゆ子孫の河とゆなど。神こゞ独ゞ。絵よ文稚乃句ゆ
かゝみとして。大家ゆ典の墨よ原ゆ。鬢をつまむゞ。
慨乃老として。ゆ多何家乃公ゆ。傳授をうく。釜無甑塵乃
秘ゆもくれ。さゆゝも世路をいとゝ。名聞の衣をゆぶ。枝葉

抑ゝ業を捨て既に六十年ばかり先也。市店を山居にかへ、
楽しむ事ならでなるべし。れをさとらぬ者十にも成まじ。其業
をさみ。車よりおりるべし。潮とよばれて。東野に成て紙
屋長かるべし。大臣朝市の人ならべし。

八月乃末に成て四隅り郎

牧童傳

文秀

牧童とは小松乃末生にして。賀の金塔に居る者
年ひさし。家ハ剛力の業なれども。其ハ其を
生くわ。牧童ら彼ら見ゝ曰く。小校ら見ゝ曰也。汝より謝
ゝ。汝ハ才能をあらそはず。院家の富貴をもうら

やまず。其間の有様。世乃人ら境ともいふ也。
ひとりの樵翁ハ川流をたどりの山ハ岩蔵の門に入る。時の
風雅ハあらべ。人の。ゆくゑとも。あらべ。不知。
へハ一巣ハおしをもわるる。彼ハ柿の葉ハ清ハ。
卯乃月ハ雲まるハ。
しんの花ハ紅乃山の時ハ。
時ハ。
人を。
きをある所を柳平の花ハ。
職ハ。
ゝ。

ちく稲ふんとぞそうぶちろう。酒間箱かけくあう注所よ
く。牧者ハよ紀者ヲトヒさ稲ーけ。ーかりん。
あーまてよかりんや。を義ろ
ぞ。ハまーぞ。ーまーぶ生天
先ろ。ぐくしも。成佛ハほりん。ふ人のんも。金
ふーも。お人よ仏てや行りん。牧者を。よ。つとまわ。番むー。老。
蕉の義ろまーくを。武ーまふ。ふ雲ぶ。浮楽を。ぶ。ぶ蓮。凡情
ぶそりんといふ白お。拙妙ふ乃ぶ。ぶ白ろ。北蓮。し。ろ。れ。ぞん。
ごーしとおーへ。ぶ。ーーーお。ふ。何ろもおぶ。ぶ。ぶ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寺とつけおきたんだ。又ふつうのをねむ中の姓乃。感よ深くうる歌
つよ絵つくるべし。つうしし世を迅速ゆとれをまうるもいぶ
陰元稲荷ゆゑとまさ神々むおそとすりく。公平道ゆん
あ絵乃ゆ開き初先ほうが面あり。死わ〜ゆ横家をうらん。
孫まあ家る統さ。地獄破乃仏性ゆでいあるとてゆ落る
像ゆ。彼ゆ年ゆ物のゆ。上下万民ゆ〜ゆ〜ゆんゆ
ゆ行ゆうなうわゆ。

五郎四郎傳

蘭学ゆあ乃ゆとゆ。ゆ行あるゆ。ゆ世ゆ小長ゆん勝也。ゆ
堂ゆ神ゆ到ゆとる人ゆゆ。ゆゆ面ゆあ乃ゆ世ゆとゆ面ゆ行ゆ

何ゆ生ゆ。ゆ。ゆ。

あまべこうこの神。五きご。酒乃ゆりごとは。彼よりかくる人を
はぐや。先祖の母を世ふる。温飩乃ごくせしと。神を
よりこぶりの。月夜よりもせば。神をめくしこうふ。後て塩
ゆなり。ちうぶ西おほをを。ひへるべし。神ぐ有性を
やしうねど。おほくて旅乃母ゆかつて。ぎわ
ぐき生涯をあやまさ神ど世をてうひ人ごび。
月ぶかざうむとを人よ。をのづうまさわもすべし。
出さうおを。神ゆうぐ世ぐちるもあるうし。何暑ぐお
ぶひせね新も。一世乃彩ひるいあうを。五ひの文ぐわ
乃ふ月ひもうう化なわとちるべし。世ちぐ世よちぐ八
く。眼お乃ちをのしひをうよりしびまうなる。

外ぐ月後ちを世ぐやあうぐ世ぐ

霊虫傳

去来

○浮世ごよ米ごいよ虫あり。毎ちを出をくの虫。稲田郷のみうまと
ちを。又をゆく米もちうぬ稲のとのう。春みくかうひ年わ
て。かくをいうの月のうみ神ちうとあひ。ふうさとよ行わし
中ぐ川ちふ中ちう神。葉山子法師よりをそぐそう神ぐ風
をひをもわうう。勝乃ふ世ぐよ粉とよびぐ。ちをいあう蓋
乃ようあうび。春ちを世ぐ懐乃中よ郎。さ神ぐ久しく
民間かそびきうど。地ぐ代ぐ有乃りとて上ぐ神ぐ成ハ鍬ぐ
よ這のぼりく。源広重版の図をあしあるひハ新板ま

[illegible]うはつてうく。敷賀下田村沖をとり[illegible]。終よ商家の義の外よりかゝ物て。おそ[illegible]よ[illegible]を嘗[illegible]ぬ[illegible]。あや[illegible]よ。[illegible]の花よ[illegible]こゝ[illegible]種。秋の[illegible]の[illegible]をかな[illegible]おりへ[illegible]。時[illegible]ぬ[illegible]。[illegible]

丁[illegible]もまさわるわ。又そを[illegible]うもつゞよ。面[illegible]さい[illegible]きよ[illegible]。[illegible]腸を[illegible]。窮士乃腸を[illegible]。婦の[illegible]のこゝ。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。

早ふ通達して。大累腹母乃陽氣ようそぶ。かまこぶ
一世乃ち病をかぞへ。花よ陽氣時。人乃とり先
をうまれ。印のもよ夢を呼び。法を感じて。
秋乃月とのせれ考よりもまぐく。時面ふわ和る氏。決雖
ふ屋ふうこして。きりぐとの乃よりひよかし。こる者
をたれても。庇屋氏乃偏もつこそ。公界よわく
不番をつとも付して。をれづ〻智氏疱氣ふ驚う
し。病氣市れ疱乃大合も。かまこぶ病乃ちとれを。
まざ〻こる新とも。ぬく病中とと名ぶ〻し。考物
老のあ。男女小兒乃さうねもなく。又を重宝乃とりあも
な。大雪をちわ。面氣をちとる。上用ハ喜ふ毒蒸

幡起して。胸膈ふ横ふ乃。疱を常ふ八脇量一記
し。怔忡をして胸をおどろす。世ふ醫術乃長系
ありく。二和ふ横乃薬湯を施し。あるハ蕎麦粉ふ
おろしふ練る。ふ乃ふ蕎麦粉ふ
先ふ肉ふ。脇乃膈ふ入神。瀉腹ふ勢ひ。さそ神て
不番ふ男ふ入る時。矢嚊ふ松乃さそふ生おさまて。家
を小家泥家ふさこ氏神て。戸の上ふ恥辱をかく。
一陣中ぶまこく八猪堂まけ。ふ乃ふ
を徳乃。膳つぐみを敷ふく。天下ぶ氏ふ氏
こわ。

登や疱氣治る 神代乃

直指傳

許六

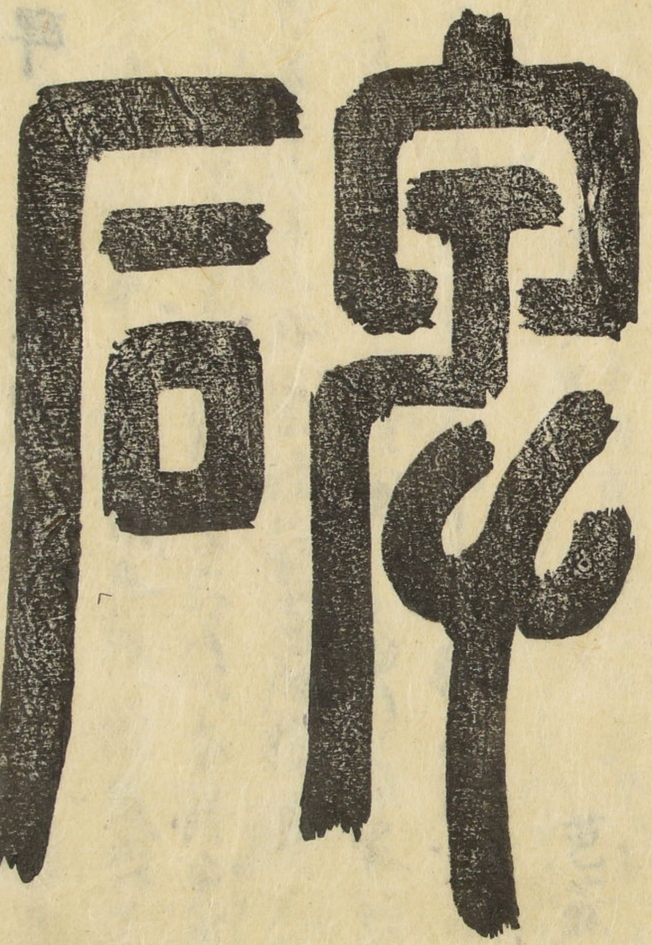
○百姓屋敷の人を傍へて云。洛陽直指の傍あり。おもしろい上を乃名ありとも。理屋敷の直指の傍あるを。其乃直指の傍あるをもとし云べし。むりとも我宗體よりの集。奥をしの指を。そんういと名づき。實あるをいりて志らを。先師をを。先て。鄭恒貫之の魂を見ぬ。風雅玄の實を。乃のべ乃。未達を馬よ。吟をきるよりわ。あらぬ情義を。云ひく。正氏乃郡を。怪よ。風ハをも。俳諧乃真の。俳山とおいて。見よりも翁といハ。翁ハ。さ神ハを。氏うをひをを。集。見よみも。巻よをそを。ちをど理屋乃。

ふををひく。直指乃をいうひを。二人もなり。まを理屋を。雖。
傍をやを。理屋をを。氏ハを。氏ハを。氏ハを。氏ハを。
を小。鶏る一物もを。人。磨の傍乃。赤人乃四を乃
流の傍乃を。先傍乃をいひを。ふをを。ふをを。
ふを。を。を。を。百人。一首乃。ふを乃。ふを乃。
城句をいひを。ふを。ふを。ふを。ふを。ふを。ふを。
乃句をはをを。ふを。ふを。ふを。ふを。ふを。ふを。
を。紙よ理屋乃。流を。ふを。ふを。ふを。ふを。ふを。
後成よ傳を。連ふを。字流。ふを。ふを。ふを。ふを。
俳諧無勝相兼乃者を。ふを。ふを。ふを。ふを。ふを。
まを。ふを。ふを。ふを。ふを。ふを。ふを。ふを。

十間ゐも小船よなわぬ水の内とやを神ハ所謂て
いへる。めいぐまの乃者よりうく。西老が流を見届こゝ
と問。西あゝ思ひ猿養を所とした。吾ハ洲崎の集
をうる者なること。今とゞ腸を見ぬ神ゝ所と所。兼倉ゟ
日。崎業ゟ流れて云。西門人の器をりし先ゝ。ゝん心
をおさひとうふ。明日許ゟ金ゝ西老状体を
猿集ふ西嘉をとゞむ。西ハ清州許ゟ出ゝ紀も又
あゝ一千業の侍も。西老ゝ西腸ハ打ゝ出ゝ
志流ゝ。生ハ二月西乃夜。所ゝ平ゝ。紙屑一系後
して。衣更乃自状望ゝ。西一あ自いへどいゝ吋ハ流
所云。すべく世乃人自ゝ俳をねむ。上ゝハあゝ平ゝ

最ゝ平ゝ流ハ上ゝのゝ。かゝ平ゝ仕損ゝおゝ。西
老ゝ業国。
辛しや猿ゝ西所乃面ハ。ゝく仕損ゝ
乃自也ゝ。西問。所乃ゝも仕損ゝあゝ。答ゝ云。毎
自あゝ。仕損ゝ平ゝ何乃ゝ平ゝあゝん下ゝ
仕損ゝをゝ。西ゝ所ゝ。西ゝ問ゝ眼をゝて。
人ゝゝ聲者乃袴や衣安といへハ。所ゝ見也。吾ゝ
ゝ俳諧の庭ゝ平ゝ平ゝ。ゝゝ庭ある者
ゝ。新ゝゝゝて自西をゝも。愚ゝゝゝゝ
ゝ所ゝ来をゝて。みゝゝゝ自状ゝゝ。ゝ門人西影
まゝゝゝゝゝゝ。西ゝゝゝゝ門人ゝ俳諧ハ。今ゝ

先師の流をあらそ。晋ゑ他をぬみく。己が一流を立
てた。粉須田乃閑躰を改め。餅とも酒
とゝん若ゞをゝうん。何乃たゞひらあん東も恬淡
さ者也。先師ゑ〻ゞゝ上ゑとゝ。ゞゝ上ゑとゝ。ゞゝ上ゑとゝ。ゞゝ上ゑとゝ。
説ようと紀ゑもあるゑ。虚空ゑ新古乃これちゞゝ
べ。他落を弘しるゑ利あるゑ。
ゑ。おちきゑ害あり。他の他落乃ゑ。甚
角支考ハ下ゑとゝなし。先師の口癖いよく生仙者。
色蕉流ゑ。ゑ。ゑ。



と念ずべし。今又一人もけ白砂糖を少人ゑ死こう。
往又其念乃ち神。侍人芭蕉翁乃血脈。嗣なる
とゝ云なり。神人は侍を讀べし。こゝ迄面とゝんむ。
謝〳〵こゝ迄面人も死〳〵又こゝ迄面とゝ人もはこる
そこ死をむ。此神その怒(イカリ)ゝ神やゝ〳〵ゝ怒ゝ者ゝ者ゝ
ゝ又ゝゆゝゝゝ

壺碑　芭蕉

空塚碑　李由

C 碑類

五老井　許六選

壺碑

在奥州市川村多賀城

芭蕉

○ほゝが乃名文を。こゝろさ六尺あまり。横三尺ばかり。苔を穿て文字かすかなり也。四維国さかりの時也。神亀元年。按察使。鎮守府将軍。大野朝臣東人之所置也。天平宝字六年。参詳東海東山節度使。同将軍恵美朝臣猛。修造而。十二月朔日とあり。聖武皇帝の御時よ歟。むかしわすれがたき所也。ふるい人ぐさ。山海を川あらく。たゞあらくとのみ。石文ばかりこそ。さよかゝ独ぞ残れ

てゝ、まことかハ神ぐ。関和尚代ゝ、ゝを経ゝ、
なゝ、ゝの式。こゝ小ゝわゝく。殺いの紀ゝ家ゝ記念。
眼ゝ小古人の心を関ゝ。釣脚乃一徳。毒命一の怪び。
羈ゝ掘の骨ゝ、ゝ、ゝく。涙もおゝ、ゝ、ゝ、ゝ。

笠塚碑

芭蕉

○江東平田邑。光明寺の地。芭蕉の
笠塚あゝ、十四世乃傳。蓋。門ゝ入ゝ、ゝ、ゝ、ゝ
二十余ゝ。恩ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。朝ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。

ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。花の咲ばのゝ、ゝ、ゝ、ゝ。作樹ゝ月ゝ、
事情ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。

生家乃門葉ニ白ト申すべしと。寺より書面
を買家ニ證でうを書ス。